

宮城大学 後援会報

Vol.46

発行
平成28年2月25日

発行者
〒981-3298
宮城県大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381

編集
宮城大学後援会事務局

宮城大学後援会報 Vol.46

平成28年2月25日発行

編集・発行 宮城大学後援会事務局

〒981-3298 宮城県川口郡大町学苑1番地1
公立大学法人宮城大学 学生支援グループ内

T E L : 022(377) 8381
F A X : 022(377) 8282

E-mail : kouenkai@myu.ac.jp
U R L : http://www.myu.ac.jp/~kouenkai/

教員からの一言

成人式



看護学部教授
武田 淳子

私が宮城大学に着任させて頂いてから、今年で18年目を迎えます。開学当初からではありませんが、来年には20周年の節目を迎える宮城大学の成長・成熟の過程にさまざまな立場に関わらせて頂きました。その経験を通して、私自身も一教員として成長・成熟する機会を頂いたと感じています。

人の成長に例えるなら、この世に生を受けてから病気やけがを全く経験せずにつつことなどまずあり得ません。宮城大学も私が所属する看護学部も、ときに体調がすぐれなくなったり、また、東日本大震災に見舞われて大きな痛手を受けたりしたこともありましたが、その一方で各研究科や食産業学部、センターなど家族が増え、地域社会とのつながりが強くなるなど、喜びも数多く経験しながら成長し、来年には成人式を迎えようとしています。

大学の成長とともに、医療機関等での実習や学会等で卒業生の活躍ぶりを目にする機会も増え、とても頼もしく感じています。学生の皆さんが宮城大学に在籍している期間は短いですが、在学生として、また卒業後も卒業生としてのおひとりおひとりの活躍が、今後社会的責任が一層増してくる宮城大学の成長・成熟につながっていくことを忘れずにいて頂けたらうれしく思います。

平成28年度 後援会総会を東京エレクトロンホール宮城で開催します。

平成28年度後援会総会を開催いたします。議題は、平成27年度事業報告・決算報告、平成28年度事業計画・予算案などです。ご出席くださいますようお願いいたします。

なお、学外の会場での開催となりますので、お間違えのないようご注意ください。

- 日時：平成28年4月4日(月)
入学式終了後 午後12時30分～午後1時10分(予定)
 - 場所：東京エレクトロンホール宮城(県民会館)大ホール
仙台市青葉区国分町3-3-7
- ※駐車場はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

編集後記

「群像」にご登場いただいたジョバニさんの印象は明るく素直な好青年です。これまで訪れた国は10カ国で、日本の美しさは群を抜いていると笑顔で話してくれました。留学生を紹介するのは今回が初めてですが、外国人ジョバニさんの目を通して、改めて日本の美しさや、誇れる文化を見直すことができました。

今後も学生の皆さんの、生き生きとした様子をお伝えできる誌面作りを心がけて参りたいと思います。皆さまのご意見、ご感想をお寄せください。(S・I)

理事会だより

10月8日に開催された第3回理事会で、大学改革室から大学の学部改組構想について、説明がありました。内容についてお知らせします。

大学改革について

宮城大学では、「地域とともに歩む大学」として、さらなる教育の充実等を図るため、平成29年4月のスタートをめざし、初年次教育の充実、学群・学類制の導入による専門教育の再編と、入試制度改革を予定しています。

生涯にわたって学び続ける力を育むため、より充実した基盤教育を導入するとともに、高校までの学びや取り組みを多面的に評価する新しい入試を実施します(現在構想中)。

なお、平成28年度までに入学した学生の皆様につきましては、入学時の学部・学科の名称と教育カリキュラムが、引き続き継続されることとなります。

詳しくは、宮城大学学部改組構想特設ページをご覧ください。

<http://www.myu.ac.jp/site/kaiso/>

卒業式のご案内

平成27年度宮城大学卒業証書・学位記授与式を挙行しますので、ご出席ください。教職員一同、心よりお祝い申し上げます。なお、式場内の座席数は限られているため、満席となった場合は、式場外のモニターでご覧いただくこととなりますので、ご了承ください。

式典の詳細は、大学ウェブサイトに掲載しています。
(URL: <http://www.myu.ac.jp>)

- 日時：平成28年3月18日(金)
受付 午前9時開始
式典 午前10時～11時30分頃
- 場所：大和キャンパス講堂

学務課 ☎ 022(377)8218

後援会終身会員制度のご案内

後援会では、保護者の方々が学生の卒業後も宮城大学を支援する、終身会員制度を設けています。

卒業生の保護者の皆さまの希望によりご加入いただくものですが、これまで多くの方々に入会いただき、大学の精神的な支えとなっています。会員の方には年2回発行の会報、及び主催事業の案内等を20年間送付致します。

大学間の生き残りをかけた競争が激化する中、自主自律の運営を目指す宮城大を、更なる充実した支援で物心両面から支えてまいりたいと考えております。

今年度卒業を予定されている学生の保護者の皆さまには、改めて御案内いたしますので、何卒、制度の趣旨を御理解いただき、多くの方に御賛同いただきますようお願いいたします。(後援会事務局)

主催事業「川口淳一郎氏講演会」&「宇宙展覧会」

世界一より世界初

聴衆を乗せ「はやぶさ」講演飛行

宮城大学後援会では、大学祭に合わせて10月17日に恒例の「講演会」を開催しました。会場の大和キャンパス講堂には、後援会会員をはじめ教職員や在校生、そして近隣住民や一般の方々など多くの聴衆が集まりました。

「メモをとらないでください。ね。せっかく私が冗談を言っても笑っていただけなので」と始めたJAXA(宇宙航空研究開発機構)シニアフェローの川口淳一郎先生です。

読んでいるページの理解が完璧でなくても、新しいページを開かなければより広いページは開かない。型をはみ出すくらい、臆することのない飛び出しを期待したい」と励ましてくださいました。「やれる理由を見つけないかぎり、挑戦しないかぎり、成果は得られない」という言葉は、前途ある学生や若い世代ばかりではなく、シニア世代の私にも強く響きました。これからは、私たちに勇気をいただく機会を企画していきたいと思えます。

(後援会理事 武田篤彦)

機「はやぶさ」のプロジェクトを率い、小惑星から資料を採取して地球に持ち帰る「サンプルリ



聴衆に語り掛ける川口氏

「はやぶさ」は、世界初を指す。はやぶさが目指したのは「世界初」であり、世界初であることで自動的にナンバワンになったと強調し、「たとえ今

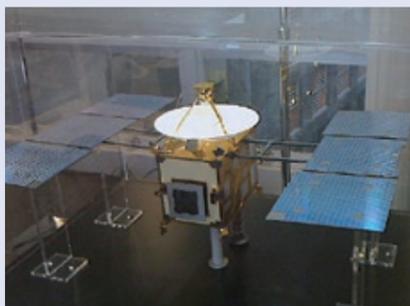


講演会にちなんで「宇宙展覧会」

講演と連動して「はやぶさ」の模型や採取サンプル、プロジェクトの解説パネルなどを集めた「宇宙展覧会」も開かれました。展示品はJAXAから提供を受けたもので、学生有志が小さな子どもたちに丁寧に説明している姿が印象的でした。



小惑星「イトカワ」模型(縮尺1/1000)



「はやぶさ」模型(縮尺1/8)

記事一覧

2面 ● 後援会役員と学生代表意見交換会、「絆」
3面 ● コラム、合同業界研究セミナー

4・5面 ● 学際2015、食産業学部ホームカミングデー
6・7面 ● 群像 学生の挑戦

8面 ● 教員からの一言、理事会だより 大学改革について、終身会員制度、他

学生に向け、常に魅力ある情報発信を

後援会役員と学生代表の意見交換会が、11月12日に大和キャンパスで、11月26日に太白キャンパスで、それぞれ行われました。大学からは、学生部長と各部学生委員長が出席し、学生の活動状況報告を受け、後援会助成のさらなる充実を目指して、積極的に意見が交わされました。

大和キャンパスでは、12人の学生代表が出席し、大学祭実行委員会から、大学祭で駐車事故ゼロを達成し、ゴミ分別をスムーズに行ったこと、執行部からは、意見集に努めたことなどが報告されました。また、太白キャンパスでは、10人の学生代表が出席し、大学祭実行委員会から、大学祭で作物収穫体験や、ホームカミングデーを実施して盛況だったこと、サークル連絡会からは、月一回サークル助成金の扱いに関する説明会を実施していることなどが報告されました。

に挙げられた「大学祭実行委員会を除く委員会の人材不足」については、役員から、「活動の魅力発信強化」が助言され、「サークル助成金申請及び、予算・決算書の確実な提出」には、学生への周知徹底と事務局・役員による指導・サポートを継続すること、そして、引き続き活発な両キャンパス交流が円滑に推進されるよう努めることなどが確認されました。

また、教員からは、予算根拠となる明確な事業計画立案の必要性も指摘されました。続いて、役員からは、後援会の20周年記念事業に対する要望も募られ、学生か

らさまざまなアイデアが出されました。後援会では、今後も学生が実り豊かな大学生活を送れるよう「学生の声」声に耳を傾け、支援に反映させてまいります。

(後援会副会長 齋藤浩美)



活発に意見が交わされた意見交換会(上段大和キャンパス)

絆

No.15

在校生、卒業生、保護者。教職員などさまざまな立場で宮城大学に関わっているかたから寄せられた思いでつなぐ「絆」。今回ご登場いただくのは、事務部の職員として大学に勤務している久米宏紀さん(事業構想学部13期生)です。社会人として母校で過ごした3年間を振り返ってもらいました。

進化し続ける大学とともに

事業計画学科13期生(24年度卒) 久米 宏紀

私は平成25年3月に宮城大学事業構想学部を卒業し、同年4月に事務職員として採用になりました。入社してから早いもので3年が経とうとしており、平成25年に入学した学部生ももうすぐ4年生になろうとしています。私は入社してから現在まで、学務課学生支援グループという部署に所属しており、主に学生生活に関わる仕事をしています。そのため、他の部署より学生と接する機会が多く、毎日楽しく仕事をしています。

学生のときは意識していませんでしたが、大学では1人の学生に対して、とても多くの職員が関わっています。入学試験や入学式をはじめ、普段の授業、学生生活、就職に関することなど、1人1人の学生を支える業務は多岐に渡っています。

また、宮城大学出身の事務職員も少しずつ増え始め、これらの宮城大学を自分たちの手で創っていくという使命感とやりがいを持って日々の業務に取り組んでいます。

宮城大学は平成29年には開学20周年と学群制への移行と大きな改革の時期を迎えようとしています。これから進化し続ける宮城大学とともに歩んで行きたいと思っています。



▲事務部の若きホープ 久米宏紀さん

新米学生委員長のコラム⑥

大学時代の宝物＝“人とのつながり”

看護学部准教授 大熊 恵子

学生委員長になり学生から相談を受けることも増えました。その時に「先生はどんな大学生活を送ったの?」と聞かれることがあります。そこで、今回は私の辛い大学生活の思い出を書くことにしました。

中学生の時に「看護師になる」と決心したのですが、親から「無理だから、やめた方がいいよ」と何度も言われました。その言葉が火に油を注ぐ結果となり(反抗期真っただ中でした)、看護大学に強行入学しました。

しかし、1年生の基礎看護技術演習での教員との言い争いをきっかけに、看護師への熱が冷めてしまいました。ここで退学しなかったのは、親の予想通りに「看護師は無理」となってしまうことを避けたい一心でした。この頃の私はとんがってふてくされておられ、「自分のメンツのために仕方なく大学へ行く」状況で、某テーマパークでアルバイトをしている時間の方が長くなっていました。

こんな状況でなぜ卒業できたのか?そ

れは“人とつながること”の大切さを感じられたからだだと思います。アルバイトでは、キャスト間のチームワークの重要性やゲストの立場に立つことを叩き込まれ、大学では、挫折して泣いてばかりの私を同級生や先輩が励ましてくれました(彼女らとは今でもつながり続けています)。相手を思いやる体験や人からの温かさや優しさを感じることで、とんがっていた気持ちが少しずつ丸くなっていき、自分の目標である「看護師になる」に立ち戻れたのだと思います。この体験があったからこそ、人とつながる意味をさらに探究したくて、精神看護学を研究している気もします。

今後も宮城大学の学生・教職員はもちろん、後援会の皆様ともつながっていきながら、学生支援に務めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

チームワークの重要性について講義中(精神看護援助論Ⅱ)



(おおくま けいこ)看護学部准教授	
1992年3月	聖路加看護大学看護学部 卒業
1992年4月	聖路加国際病院 看護部(外科混合病棟に配属)
1996年4月	長崎大学医療技術短期大学看護学科 助手
2001年3月	聖路加看護大学大学院 看護学研究科 博士前期課程(修士課程) 修了
2001年4月	東京武蔵野病院 看護部(精神科リハビリテーション病棟に配属。2004年より副看護部長)
2006年4月	聖路加看護大学看護学部 助手(精神看護学担当 2008年より助教)
2014年3月	聖路加看護大学大学院 看護学研究科 博士後期課程 修了
2014年4月	宮城大学看護学部 准教授(精神看護学担当)

事業構想・食産業学部 「合同業界研究セミナー」開催 県内外100の企業・団体の協力を得て 実践的キャリア教育

12月9日(水)と10日(木)の2日間で100の優良企業(団体)(地元企業40社、県外企業60社)を大和キャンパスに招いて、合同業界研究セミナーを開催しました。本セミナーは、就職活動に関して公になっているルールに則り、本学が責任をもって主催・企画・運営し、参加する学生に対しては、キャリア教育の一環であって採用選考活動とは一切関係ないことを明示、参加企業に対しては学生の個人情報を提供しないと明確にしてのものです。会場設営にかかる小さくない費用を、後援会からご協力いただきました。

学生の参加数は、事業構想学部と食産業学部の3年生を中心に、2日間でのべ469人でした。



今回はキャリア開発センターがプレセミナーを催して事前の下調べを促したことも奏功し、大半の学生が17時の閉会まで会場に残って熱心に話を聞き、質問をしました。企業側のアンケート回答を読むと、外交辞令を差し引いても本学の学生に好感を抱き、宮城大学に好印象を持って、満足してお帰りいただけた様子が窺えます。就職活動本番に向けて、いい形でスタートを切ることができました。(学務課 阿部成雄)

MYU学祭2015 キャンパス毎、特色を活かし開催

卒業生から熱いエール

食産業学部教授 森本素子

食産業学部では、平成27年10月11日に第一回ホームカミングデーを実施しました。この日は大学祭の初日ということもあり、多数の卒業生に参加していただきました。



左から高浜氏、木村氏、高根氏

第一部は卒業生のパネルディスカッションを「食産業学部で学んできたこと、そして今」と題して開催し、ファームビジネス学科1期生 高根雄人氏((株)仙台秋保醸造所 栽培・醸造責任者)、フードビジネス学科1期生木村優輝氏(地方独立行政法人青森県産業技術センター 食品総合研究所研究員)、環境システム学科1期生高浜遼平氏(自営業「wara no bag」店主)に講演をお願いしました。3人3様の熱演で、参加した卒業生たちからは「大変励まされた」「自分ももっと頑張ろうと思った」等の感想が寄せられました。食産業学部で学んで社会人になった卒業生が、このように実り豊かに活躍されていることは、教職員一同の大きな喜びです。

第二部は生協食堂にて懇親会を行って旧交を温め、あっという間に楽しい時間が過ぎ、来年の再会を誓って散会となりました。

食産業学部では今後も卒業生の皆さんとのつながりをますます大事にしていきたいと考えています。



記念撮影 仲間はいいね。また明日から頑張るぞ!

農業体験や宮城の食材を利用し、新たなチャレンジ

こんにちは。太白キャンパス大学祭実行委員会委員長の松田直也です。

今年度私たちは、新しいことを取り入れ大学祭を盛り上げていくことを目標に準備を進めてきました。それは、農業体験や宮城の食材を使用したイベントなどです。初めて行うもので戸惑うことばかりでしたが、試行錯誤を繰り返してより良いものになるように実行委員一同努めてきました。また、「地域に根差した大学」をアピールして、宮城県の食材を積極的にイベントに使用しました。参加していただいた皆さまに少しでも楽しいと感じていただくと同時に、宮城の食について知っていただけたなら幸いです。

大きな事故なく無事に大学祭を行うことができました。協賛していただいた企業の皆さまや地域の方々、学校関係者の皆さまのご協力に感謝します。本当にありがとうございました。来年度も、ますます大学祭が盛り上がるよう後輩に期待します。

(太白キャンパス大学祭実行委員長 環境ビジネス学科2年 松田直也)



大和の学祭におじゃましました

盛り上がりは夜まで



食産の目玉は露店



学内に恐竜出現



一致団結! 太白C実行委員一同



食産のアイドル?



太白のマスコット「しよっ君」



“三角あぶらあげいかがかですかあ” 事務部も露店で応援(大和)

太白10月11・12日、大和10月17・18日



夜まで踊って、歌って



おいしいよ



ウルトラマンだ!



大和C実行委員総勢152人



大和のマスコット「ミュー君」

装飾や企画で宇宙の壮大さを表現

平成27年度の大学祭も大盛況の中で終わることができました。大学祭への来場者様を始め、大学祭までご協力してくださった関係者の方々に大学祭実行委員会を代表して感謝を申し上げます。

今年は「My universe」をテーマに掲げ、大和キャンパスらしく創造性に富んだ企画や装飾物で、宇宙の壮大感を出すことを目標に活動を行ってきました。プラネタリウムや宇宙研究所を舞台にしたお化け屋敷を企画したり、ゲストに宇宙からやって来たウルトラマンを招きました。また、後援会主催で、JAXAの「はやぶさ」プロジェクトマネージャー川口淳一郎氏の講演会も開催され、大学祭を盛り上げて頂きました。フィナーレは宇宙に向けた打ち上げ花火で2日間の祭典を締めくくりました。皆さま、楽しんでいただけましたでしょうか。

すでに来年に向け実行委員会の活動がスタートしています。新委員長も決まり、リーダーとしての役目をバトンタッチしました。来年の大学祭はよりパワーアップしてくれると期待しています(私たちの代が一番であってほしいですが…笑)。

新大学祭実行委員会は来年度に向け邁進中です!

(大和キャンパス大学祭実行委員長 事業計画学科2年 小幡美誠)



皆さんに感謝です



ベガルタ仙台アンバサダー 平瀬智行氏登場



当日は好天に恵まれ



夜空を飾った花火

群像

学生の挑戦

ある留学生の宮城大学での生活

日本の教育

一昨年の秋から、留学生として来日したジョバニ・スタブゴバさんを紹介しします。
 ジョバニさんは東アフリカのルワンダとウガンダで生まれ育ち、フランス式、イギリス式二つの教育方法を体験しています。今、宮城大学で研究の日々を送るジョバニさんの目に、日本の教育はどのように映っているのでしょうか。



留学生ジョバニさん

Just to give you a glimpse of my experience studying in Rwanda's once french oriented academic education, I consider it to be; "Educator is pushy to the Learner", then Uganda's British oriented one is "Educator argues out the Learner". The system of Higher Education in Japan and precisely MYU is "Educator parents the Learner". Therefore, your professors and MYU staff will, on top of offering education services, offer things like " texts of your whereabouts after earth quakes", "tips of which stores are cheap" , "a cup of coffee together" and more.

私の経験をもとにルワンダでのフランス式の教育を一言で表すと「教育者は学習者に自分の考えを押し付ける」です。またウガンダのイギリス式の教育は「教育者は学習者と論じ尽くす」です。日本の高等教育、特に宮城大学においては「教育者は学習者に親のように接する」です。宮城大学の教授や職員の方々は、単なる教育の提供の他に「地震の後に安否確認のメールをする」、「どこの店が安いかわせてくれる」、「コーヒーと一緒に飲む」等何かと気遣ってくださいます。

(Writer: Jovani Ntagoba 日本語訳: 学務課 関野純子)

「おもてなし」は日本の文化

ジョバニさんは来日当初、数々のパーティーで歓迎され、毎日のように楽しい日々を過ごしました。学業だけでなく、慣れない異国での生活を気遣ってもらえることにとっても感謝しています。
 日本では「おもてなし」をホスピタリティとしています。英語で「おもてなし」を一言で表現することは難しいようです。言葉ではなかなか表せない「おもてなし」を、ジョバニさんは心で感じ取りました。

素晴らしい大学生活

ジョバニさんの母国ルワンダは農業と観光業が経済の中心ですが、今は、情報通信技術の知識経済への転換に取り組んでいます。ルワンダ国立大学理工学部で電子通信工学を学んだジョバニさんは、更に専門性を高めるために、日本政府の支援政策「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ」を受け、現在、宮城大学大学院事業構想学研究科博士前期課程でデータサイエンスを学んでいます。将来は両国の懸け橋を担うことが期待されています。
 留学生ジョバニさんには、世界から見える日本を教えてくださいました。"Feel Global!"

(後援会書記 伊藤早苗)

MYU is beautifully engraved within nature. With this fascinating academic life, my time at MYU seem to be flying very fast and can't imagine how so much I will miss this beautiful place after my studies in early 2017.

宮城大学は自然の中に美しく調和しています。このような素晴らしい大学生活を送る中で、私の宮城大学での時間は飛ぶように過ぎていきます。2017年の初めに研究生活を終える頃は、どれだけこの美しい居場所を恋しく思うことか、今は想像もつきません。

(Writer: Jovani Ntagoba 日本語訳: 学務課 関野純子)

仙台土産「蔵王クリームチーズ大福」 仙台空港と共同開発

事業構想学部教授 藤原正樹

仙台空港のショップを運営する仙台エアポートサービス株式会社と事業構想学部藤原ゼミの学生が共同で、新規おみやげ開発に取り組みました。eビジネスを学ぶ藤原ゼミの学生達は、仙台空港のWebショップ「そらみやげ亭」の活性化に向けた取り組みの一環として、仙台空港にしかないおみやげの開発に取り組みできました。そこで生まれたのが、「蔵王クリームチーズ大福」です。暮れも押し迫った12月24日から販売を開始したところ、大好評で、わずか6日間で完売しました。

藤原ゼミでは、3年前から仙台空港Webショップの活性化に取り組んでおり、Webサイトの改善や、リアルの実店舗とバーチャルなWebショップとの連携などを提案してきました。新しいおみやげ開発はその一環で、今後も継続の予定です。

宮城大学と地元企業が連携した取り組みとして注目されています。



「蔵王クリームチーズ大福」



開発を手掛けた藤原ゼミ生

「日・伊、地方創生交流プロジェクト」に参加して

東北経済連合会が実施した、東北の学生や若手社員を対象とした、イタリアでの17日間の研修旅行のプロジェクトに、本学から3人の学生が選ばれました。その一人阿部優理恵さん(デザイン情報学科メディアデザインインコース3年)に体験談をご紹介します。

繋がれてきた職人技を実感

事業構想学部デザイン情報学科3年 阿部優理恵

平成27年11月7日(土)東北経済連合会主催の日伊地方創生交流プロジェクトに参加し、イタリア・ウンブリア州にあるソロメオ村の職人技術学校で研修を受けました。高級ブランド「プルネロ・クチネリ」が設立したその学校で服飾の職人から指導を受け、手を動かしながら技術・文化の伝承や地方のあり方について考える2週間を過ごしました。

高い付加価値をもつクチネリ氏のブランドの軸ともなっている「イノベーションでなくアップデート」という考え方がありました。突然空から降ってきたようなものとは違う、途切れずに繋がれてきたものが持つ豊かさがあると思います。彼が再生させたソロメオ村には職人技術学校のほかにも美しい図書館や劇場がありました。技術や文化を引き継いでいくということが、アップデートの基盤になると思います。その視点は「これからの東北」についても活きるもので、私たち若者が東北のあり方を更新していくことを考えなければならぬと思います。



職人技に見入る研修生、阿部さん(右上)

食産業学部生企業と共同で商品開発 宮城大学×藤崎IIお歳暮プロジェクト

食産業学部教授 西川正純

藤崎とのコラボで開発したお歳暮商品グラノーラを紹介しします。
 プロジェクトは、藤崎の古典的なお歳暮を学生さんの斬新なアイデアを活かして新しく作り変えたいとの提案からスタートしました。

食産業学部フードビジネス学科3年生6人をメンバーに昨年4月から始動し、「若い人が手に取りたくなるようなデザイン」、「中元や歳暮の用途でなくても贈りたいと思えるもの」を基本コンセプトに「宝石箱」をイメージした完全オリジナルの「美味しさギョット きれいなギョット」と欲張りグラノーラ」を作り上げました。
 中身は学部の特徴を活かし美と健康を訴求した「美肌叶えるグラノーラ」、「お腹すっきりグラノーラ」、「からだ整うグラノーラ」の3種がセットで、宮城の餅米「みやこがねもち」を使っていることも特徴です。
 今回のプロジェクトは学生にとって、これまで学んだ知識を活かし、しかも会社組織と共同で商品を作り上げる良い機会となりましたが、藤崎も「斬新なアイデアで社内にも新風が吹いた」と高く評価しており、今後も継続的にプロジェクトを進める予定となっています。



開発商品、グラノーラセット



学生の活動の様子